

地域資源を発掘し地域活動と連携させた回遊行動創出への取り組み

熊本県熊本市

- 路地空間の魅力を再発見するための写真コンテストや交通実態調査等の実施
 ○旧城下町地区の町屋の利活用に向けた町屋体験学習の開催等
 ○人通りの分布や回遊行動等の既存データの整理・分析及び街路や公共空間のつながりを分析

概要	熊本市では、中心市街地に位置する熊本城の復元整備が進み、熊本城への来場者が急増したが、中心市街地の活性化にはつながっていないため、地域まちづくり活動と連携し、地域固有のまちなみなどのつながりを深めるなど、地域資源の活用や発掘と魅力ある回遊空間の向上を図り、地域の景観形成に寄与することを目的とし、路地空間の魅力を向上させるための景観要素調査や通過交通調査を行った。また、歴史的資源を生かし、利活用に向けた景観学習を行った。このような取り組みを基に街路や公共空間のつながりを分析し、特性について指標化を行った。
実施内容	<p>上乃裏地区は、古民家を使った魅力ある店舗が立ち並び若者を中心とした熊本の人気スポットとなっているものの、路地を通行する自動車により、快適なまちなみの回遊が阻害されている。そこで、快適なまちなみ形成のため現状の交通実態を把握した上で、ワークショップを行い、車のない路地空間とするための検討や写真コンテストを実施し、住民、市民への意識づけにつなげる取り組みをおこなった。</p> <p>①</p> <p>新町・古町地区は、熊本城の築城当時の町割や約400棟の町屋が残るが、老朽化や住民の高齢化により、空き家や解体が進んでいるため、歴史的資源である町屋の保全に向けた取組として、空き町屋のお掃除体験や掃除後の町屋での</p> <p>② イベントとしてカフェや町屋を貸したい人や借りたい人等の相談会及び町屋巡りを行い、地域内外から多くの参加があった。また、町屋ワークショップの開催により、町屋利活用に対する意見交換ができ地域住民と共に町屋体験学習を行った。</p> <p>熊本市の中心市街地に位置する熊本城では復元整備により観光客をはじめ来場者が急増したが、中心市街地の来街者の増加にはつながっておらず、回遊性の欠如が大きな課題となっている。そこで街路や公共空間のつながりを分析するとともに、実際の回遊行動を把握することより、将来の都市空間のあり方を示し、より魅力的で良好な景観形成に向けた調査(スペースシンタックス手法)を行った。</p> <p>③</p>
取組の成果	<p>取組①については、イベント開催、住民とのワークショップ、質に関する交通実態調査の実施等を行い、路上公園化に対する地元及び通行者の関心の高さ、並びに上乃裏地区の特徴を把握できた。</p> <p>取組②については、町屋体験学習としてお掃除とイベント等を開催し、町屋に対する市民の関心が高く、予想上回る参加があり、歴史を感じさせる町屋の重要性を認識した。</p> <p>取組③については、各地区の空間的特徴を明らかにすることができ、取組み①、②等の活動を有機的に結びつけるプラットフォームをつくることができた。</p>
今後の課題	<p>取組①については、路上公園化をする上で、地元、商店街のまとまりの必要性。交通管理者との連携協力。</p> <p>取組②については、町屋が地域景観を特徴づける貴重な資源として、新町古町地区の歴史的資源を生かした景観形成とすることが重要である。</p> <p>取組③については、実際のプロジェクトへの活用方策を具体的に検討することが課題である。</p>

今後の展開	<p>取組①については、地元住民と店主と行政、まちなか工房(熊本大学)がタイアップし、協議会を設立し、関係機関との協議を進め、本格的な社会実験の実施、さらには定期開催を模索していく。</p> <p>取組②については、町屋イベント等による広報・啓発を続け、既存の助成制度を活用するために町屋のリストアップや貸したい人、借りたい人など町屋に関する情報の収集提供に取り組みたい。</p> <p>取組③については、プラットフォームに、より広範な空間情報を取り込み、法規制等とも関連づけをおこない、関係する様々な主体に、分析的な都市デザイン手法についての理解と協力を促し、再開発事業やまちなみ形成につなげていく。</p>
市町村名	熊本県熊本市
部局／担当者名	都市建設局都市整備部開発景観課／中嶋 都市建設局都市政策部都市計画課／田中
連絡先	TEL：096-328-2507 096-328-2502
リンク	

(写真又は図)



取組①の写真



取組②の写真

地区ごとの分析例 <<古町>>



取組③の写真